

ISSN 0912-778X

穂別町立博物館館報

第12号

平成6 (1994) 年度

穂別町立博物館

目次

- 沿革 (p. 1)
- 施設の概要 (p. 4)
- 施設平面図 (p. 4)
- 展示活動 (p. 5)
- 収蔵資料概要 (p. 6)
- 資料収集保存活動 (p. 6)
- 調査研究活動 (p. 7)
- 普及教育活動 (p. 9)
- 運営 (p. 11)

「この博物館は、国の公立社会教育施設整備事業及び北海道市町村振興事業の補助を受け建設されたものである。」

穂別町立博物館は昭和50(1975)年の長頸竜「ホベツアラキリュウ」標本の発見がきっかけとなって建設された。当初は「穂別町郷土資料館」として計画されたが、建設計画中に「穂別町史」の研究・保存・普及と「町の歴史(人文)」の保存・普及を行う二面性を備えた総合博物館であった。その後、約10年にわたる博物館活動の結果蓄積された自然史資料の重要性と、人文系資料の保存活動に要する作業量にアンバランスを生じ、活動方針の変更が行われた。その基本活動方針は、「穂別地域で産出する古生物(化石)を材料とし『地球と生命の歴史を考える』総合博物館とする」である。その後現在にいたるが、ここではその経緯を記録し、今後の活動の充実と強化につとめていきたい。

I 「建設の目的」と「展示更新」 の基本的考え方

〈穂別町郷土資料館建設の目的〉(昭和55(1980)年11月26日)

『本町は、クビナガリュウをはじめデスマスチルス、海ガメなど多くの動植物の化石が発見されることから、道内でも特異な地質条件にあることが予想される。こうした自然環境を背景に、先人は寒冷地での生活に耐え抜いて開拓の苦闘に打ち勝って穂別の歴史を展開してきた。穂別町開基70年(町制施行20年)を記念して、本町の地質系統と生物の進化、開拓の足跡を示す歴史資料を収集・保存・展示して、先人がいかに自然との調和を図りながら開拓を進めてきたかを理解し、そして未来を創造するために穂別町郷土資料館を建設するものである。』

〈展示更新の基本的考え方〉(平成2(1990)年6月27日)

『穂別地域で発見される脊椎動物を始めとするさまざまな化石群が、学術的に貴重なものであることは主張するまでもない。さらに、化石を古生物としてみた場合、学術的な意味を離れても、一般の観覧者にさまざまな示唆を与えてくれるものなのである。

旧来の博物館と異なり、化石をいわゆる「変・古・珍」として扱わず、「我々人間につながる生き物」として見ることを展示の基本に置く。実物は「穂別地域産」にこだわり、模型は「生きていたときの姿」にこだわる。そして、現在の種々の生き物達の関係と同じく、過去の「古」生物達にも同様の生態系としての関連があったこと、さらに、それらは数十億年も昔から現在にかけて綿々と続く「生命の歴史」の1頁1頁であることを理解させる博物館とする。』

II 沿革(年表)

昭和50(1975)年6月

穂別町字長和において、脊椎動物化石の入った母岩を発見、一部採集。発見者：荒木新太郎氏(穂別町在住)。

昭和51(1976)年9月

佐藤昌人指導員(苫小牧青少年センター)・佐藤隆久教諭(穂別町立仁和小学校)、荒木氏発見の化石を長谷川善和主任研究員(国立科学博物館)に鑑定依頼。

昭和52(1977)年2月

長谷川主任研究員の鑑定結果が新聞で報道。白亜紀海棲爬虫類の鱗の一部と確認。

昭和52(1977)年7月5～8日

「穂別町首長竜化石発掘調査団」結成、発掘調査。後に、この標本を「ホベツアラキリュウ」標本と命名。

昭和53(1978)年5月

「ホベツアラキリュウ」標本のクリーニング(割出)作業開始。

昭和53(1978)年11月

穂別町立郷土資料館、開館(旧・穂別町立さくら保育所施設利用)。

昭和54(1979)年5月

長頸竜化石骨、穂別町指定文化財第2号に指定。

昭和55(1980)年10月16日

「穂別町郷土資料館建設計画検討委員会」発足。

昭和55(1980)年11月26日
建設の目的, 設定 (前出) .

昭和56(1981)年3月13日
施設の名称を穂別町郷土資料館から穂別町立博物館に変更.

昭和56(1981)年7月～12月
博物館建設工事が行われる.

昭和56(1981)年9月1日
鈴木 茂学芸員採用.

昭和57(1982)年1月16日
長頸竜復元作業開始.

昭和57(1982)年2月10日
展示シナリオ決定.

昭和57(1982)年3月～6月
博物館展示工事が行われる.

昭和57(1982)年7月20日
博物館開館. 一般公開開始 (初代館長: 今幸太郎教育長兼任) .

昭和57(1982)年8月26日
「博物館協議会」発足.

昭和57(1982)年11月1日
北海道博物館協会加入.

昭和57(1982)年12月19日
長頸竜復元骨格展示公開.

昭和57(1982)年12月19日
特別展「よみがえるクビナガリュウ」開催.

昭和58(1983)年3月2日
博物館法による登録博物館となる (北博登第28号) .

昭和58(1983)年3月27日
「穂別町立博物館研究報告」刊行開始.

昭和58(1983)年3月28日
「博物館協力会」設立.

昭和58(1983)年4月1日
日本博物館協会加入.

昭和58(1983)年4月～
博物館広報「ホッピーだより」刊行開始 (毎月1回発行) .

昭和58(1983)年4月28日
菅原康次 (第二代) 館長就任.

昭和58(1983)年7月22日～8月7日
収蔵資料展「地図展」開催.

昭和58(1983)年8月1日
全国科学博物館協議会加入.

昭和58(1983)年11月1日～3日
町民文化祭「こけし展」開催.

昭和59(1984)年2月
村上隆著「よみがえるクビナガリュウ」発刊.

昭和59(1984)年6月14日
第二展示室 (町立博物館保存庫) 完成.

昭和59(1984)年11月1日～4日
収蔵資料展「古い写真・古い文書展」開催.

昭和59(1984)年12月1日
桜庭勝美 (第三代) 館長就任.

昭和60(1985)年3月30日
「穂別町立博物館館報」刊行開始.

昭和60(1985)年3月31日
鈴木 茂学芸員退職.

昭和60(1985)年5月1日
地徳 力学芸員就任.

昭和60(1985)年11月1日
特別展「北海道一億年」開催.

昭和60(1985)年11月3日
移動博物館コンサート開催.

昭和61(1986)年10月21日
特別展「穂別の自然」開催.

昭和62(1987)年1月1日
桜庭勝美館長退任 (第四代館長: 今幸太郎教育長兼任) .

昭和62(1987)年3月31日
都田 哲学芸補助員退職.

昭和62(1987)年7月28日
特別展「アンモナイトの系図」開催.

昭和63(1988)年7月17日
第三展示室(保存庫)完成.

昭和63(1988)年7月30日
「ぎふ中部未来博」に長頸竜化石骨貸出.

昭和63(1988)年8月23日
特別展「穂別のカメ化石」開催.

昭和63(1988)年10月6日
今 幸太郎(第五代)館長就任(専任).

平成1(1989)年6月30日
仲谷 英夫氏(香川大学助教授):長頸竜ホベツアラキリュウ標本の記載論文公表.

平成1(1989)年7月18日
特別展「穂別のむかし」開催.

平成1(1989)年9月29日~10月6日
学芸員, カナダ・アルバータ州ティール古生物学博物館に派遣.

平成2(1990)年6月27日
博物館協議会にて, 「展示更新計画」基本方針説明.

平成2(1990)年7月23日
ドラムヘラー市長夫妻(カナダ, アルバータ州)来館.

平成2(1990)年8月18日
特別展「戦争と穂別」開催.

平成2(1990)年9月3日~5日
レイド, M. G. 氏(アルバータ州ティール古生物学博物館)来館.

平成2(1990)年12月31日
今 幸太郎館長退職(第六代館長:野田藤雄教育長兼任).

平成3(1991)年4月1日
佐藤 稔(第七代)館長就任・庶務係に正職員配置.

平成3(1991)年4月28日, 29日
入館者10万人突破記念事業.

平成4(1992)年2月1日
展示更新工事開始.

平成4(1992)年4月23日~25日
カリー, P. J. 氏(アルバータ州ティール古生物学博物館)来館.

平成4(1992)年4月29日
展示更新完了, 一般公開再開.

平成6(1994)年3月31日
佐藤 稔館長退職.

平成6(1994)年4月1日
野田藤雄(第八代)館長就任(兼任).

平成6(1994)年4月1日
川上源太郎学芸員就任.

*本年表において「長頸竜」・「首長竜」・「クビナガリュウ」あるいは「ホベツアラキリュウ」などの使い分けを行っているが, 以下に従っている.

「長頸竜」:動物分類上の suborder PLESIOSAURIA の和訳として用いている. 「蛇頸竜亜目」または「長頸竜亜目」が正式.

「首長竜」:分類学上の名称としては適切ではないが, この場合「発掘調査団」の固有名称として使用.

「クビナガリュウ」:正式には「蛇頸竜目」または「長頸竜目」あるいはそのカタカナ綴りにするべきであるが, 通俗名として普及しているために本の題名として用いられたのであるから, この場合固有名称として使用.

「ホベツアラキリュウ」:昭和52(1977)年7月5~8日に「穂別町首長竜化石発掘調査団」によって発掘された標本の名称.

● 展示活動

I 特別展示

諸般の事情により平成6(1994)年度の特別展示は実施できなかった。

II 常設展示

【学校週休二日制記念事業】

学校週休二日制実施にあわせて町民無料観覧を実施。毎月第二土曜日を町内の児童生徒無料観覧の日とする。

【博物館開館記念日関連事業】

7月20日の開館記念日に関連して、平成6(1994)年7月20日(水)～7月26日(火)を町民無料観覧の日とした。

【常設展示資料】

長 頸 竜 化 石	11点
モ サ サ ウ ル ス	7点
カ メ 化 石	9点
魚 竜 化 石	1点
魚 類 化 石	7点
頭 足 類 化 石	86点
巻 貝 化 石	27点
二 枚 貝 化 石	39点
掘 足 類 化 石	3点
甲 殻 類 化 石	9点
ウ ニ の 化 石	5点
ク ジ ラ の 化 石	8点
デ ス モ ス チ ル ス の 化 石	4点
マ ン モ ス の 化 石	1点
植 物 化 石	2点
霊 長 類 化 石	7点
岩 石 そ の 他	27点
計	253点



【博物館特定入館日に伴う町民無料入館者利用状況調べ】

実施日	行事名	一般	小・中・高生	計
4～3月	学校週5日制(年12回実施)	2	54	56
7.20～26	博物館開館記念日(1週間)	33	21	54
9.15	敬老の日	15	10	25
11.3	文化の日	7	1	8
11.23	勤労感謝の日	8	7	15
1.15	成人の日	2	3	5
計	延べ23日	67	96	163

(単位：人)

● 収蔵資料概要

【自然史系資料】

収蔵場所	動物	植物	その他	計
常設展示室	177	2	18	197
整理室	2	0	0	2
貸出中	21	0	0	21
収蔵庫	829	4	6	839
計	1029	6	24	1059

(1995.3.31.現在；未登録資料は除く)

【人文系資料】

収蔵場所	生活	産業	その他	計
常設展示室	0	0	0	0
第二展示室	665	1,030	26	1,721
第三展示室	96	32	21	149
収蔵庫	107	252	1,419	1,778
貸出中	0	5	1	6
計	868	1,319	1,467	3,654

【自然系資料】

収蔵場所	動物	植物	その他	計
常設展示室	1	0	0	1
第二展示室	7	0	0	7
収蔵庫	46	23	0	69
計	54	23	0	77

● 資料収集保存活動

平成6(1994)年4月1日～平成7(1995)年3月31日の
寄贈・採集資料を順に記した。(敬称略)

I 寄 贈

【自然史系資料】 14件

貝化石	1点	笠巻袈裟男
骨の化石	1点	三宅俊一
アンモナイト・植物ほか	3点	千代川謙(千歳化石会)
カメ化石	1点	阿部利春
サメの椎骨化石	1点	平山 廉
アンモナイト	1点	石川 勇
カキガイの化石	1点	稲垣育三
モササウルス頭骨模型	1点	博物館協力会
アンモナイト	1点	柴内五男(千歳化石会)
アンモナイト	多数	協力会化石部会
アンモナイト	多数	協力会化石部会
クピナガリュウレプリカ	5点	小平町教育委員会
サンゴ化石	1点	阿部利春
アンモナイトほか	12点	遠藤建設(株)
アンモナイト石膏模型	2点	阿部利春ほか

【自然系資料】 4件

野鳥遺体(ウグイス)	1点	山越組(株)
現生貝類	多数	小林一秀
現生貝類	多数	山本勇雄
鳴砂		室蘭市教育委員会

II 採 集

【自然・自然史系資料】*主なもののみ

6月8～9日	字長和	アンモナイト
7月25日	字稲里	カメ化石(3点)(千歳化石会協力)
10月14日	浜厚真	現生貝類
10月22日	字穂別	骨(クジラ脊椎?)ほか(3点)
11月6日	字和泉	岩石標本

III 寄託資料の返却

【自然史系資料】

阿部利春：アンモナイト(1点)

【人文系資料】

佐久間正雄：郷土史資料(2点)

IV 資料の貸出

平成6(1994)年5月31日～6月18日：長頸竜模型・モササウルス化石・翼竜化石ほか貸出(北海道開拓記念館)

平成6(1994)年9月27日：長頸竜貸出(斜里町立知床博物館)

● 調査研究活動

I 脊椎動物化石の研究

【総論】

鈴木 茂(元穂別町立博物館学芸員)

公表論文・講演：

[1984]穂別町立博物館研究報告,[1],47-52.

地徳 力(穂別町立博物館)学芸員

公表論文・講演：

[1990]穂別町立博物館研究報告,[6],37-35.

[1993]日本地質学会第100年学術大会(東京)夜間小集会口頭発表

[1994]日本地質学会第101年学術大会(札幌)一般発表

[1994]日本地質学会第101年学術大会(札幌)夜間小集会口頭発表

【デスモステルス】

木村方一(北海道教育大学)教授に研究委託

公表論文・講演：

[1984]穂別町立博物館研究報告,[1],11-23.

[1984]地団研専報,[28],51-61. (松井 愈・山口昇一 共著)

[1985]穂別町立博物館研究報告,[2],51-62.

赤松守雄(北海道開拓記念館)学芸員に研究委託

公表論文・講演：

[1984]地団研専報,[28],63-68.

【クジラ】

木村方一(北海道教育大学)教授に研究委託

一島啓人(信州大学)氏に研究委託

公表論文・講演：

[1992]穂別町立博物館研究報告,[9],37-44.

【ウミガメ】

平山 廉(帝京技術科学大学)講師に研究委託

公表論文・講演：

[1985]穂別町立博物館研究報告,[2],17-30. (鈴木 茂 共著)

[1992]穂別町立博物館研究報告,[8],17-57.

[1992]日本地質学会第99年学術大会(熊本)口頭発表

[1993]日本地質学会第100年学術大会(東京)口頭発表

[1994]地団研専報,[43],17-24. (地徳 力 共

著)

[1994]日本地質学会第101年学術大会(札幌)口頭発表

[1994]日本地質学会第101年学術大会(札幌)夜間小集会口頭発表

【長頸竜】

中谷英夫(香川大学)助教授に研究委託

公表論文・講演：

[1981]日本地質学会第88年学術大会(東京)口頭発表

[1982]日本地質学会第89年学術大会(新潟)口頭発表

[1982]動物と自然,12,11-16.

[1984]穂別町立博物館研究報告,[1],37-40.

[1985]穂別町立博物館研究報告,[2],43-49.

[1989]穂別町立博物館研究報告,[5],43-48.

[1989]日本古生物学会報告・記事,[154],96-116.

【モササウルス】

鈴木 茂(元穂別町立博物館学芸員)氏が研究

公表論文・講演：

[1985]穂別町立博物館研究報告,[2],31-42.

[1985]地学団体研究会専報,[30],45-66.

地徳 力(穂別町立博物館)学芸員が別資料の研究継続

公表論文・講演：

[1987]日本地質学会第94年学術大会(大阪)口頭発表

[1990]日本地質学会第97年学術大会(富山)口頭発表

[1990]日本地質学会北海道支部報,[1],45-46

[1991]穂別町立博物館研究報告,[7],9-14. (紀藤典夫 共著)

[1994]穂別町立博物館研究報告,[10],39-54頁

【サメ】

久家直之,京都大学大学院院生に研究委託

公表論文・講演：

[1985]穂別町立博物館研究報告,[1],33-36.

II 刊 行 物

【穂別町立博物館館報】

第11号, 13頁:平成6(1994)年7月31日発行

【穂別町立博物館研究報告】

第11号, 46頁:平成7(1995)年3月30日発行

著者及び論文題名

松本達郎・利光誠一:1-16頁, 図版I~VIII
北海道穂別地域産 *Gaudryceras venustum*
Matsumotoの再研究(北海道産白亜紀アンモナイトの研究-75)

川上源太郎・川村信人・地徳 力・渋谷直憲:17-28頁, 図版I~IV
粗粒重力流堆積物パイルに認められる液状化・流動現象-北海道, 穂別地域の川端層礫岩を例として-

地徳 力:29-36頁

博物館活動における情報リレーション

地徳 力:37-46頁

博物館活動と小規模博物館の“学芸員”の業務についての考察

III 参加学会・博物館協会研修会

平成6年9月23~25日:日本地質学会第101年学術大会(札幌)

平成6年9月28~30日:北海道博物館協会・学芸職員部会研修会(札幌:アークシティホテル)

●普及教育活動

I 博物館講座

【自然観察会】

実行事業無し

【化石クリーニング教室】

学校その他の団体で要望があった際に、随時開講とした。

II ホッピーだより（博物館広報）

【主な内容】

113号(平成6(1994)年4月)

＝お礼＝平成5年:1993年博物館収集資料について

114号(平成6(1994)年5月)

『はじめまして 新任学芸員の川上です。よろしくお願ひします。』

115号(平成6(1994)年6月)

『地球科学の時代(1)』NHKスペシャル“生命”をみて

116号(平成6(1994)年7月)

『地球科学の時代(2)』地球の内部と月の起源

117号(平成6(1994)年8月)

『地球科学の時代(3)』プレートテクトニクス(1)

118号(平成6(1994)年9月)

『夏休みは博物館も大忙し!』

119号(平成6(1994)年10月)

『地球科学の時代(4)』プレートテクトニクス(2)

120号(平成6(1994)年11月)

『地球科学の時代(5) 地震とプレート』

121号(平成6(1994)年12月)

『宮沢賢治と地質学』

122号(平成7(1995)年1月)

『あけましておめでとうございます』

123号(平成7(1995)年2月)

『地球科学の時代(6) 生命の誕生』

124号(平成7(1995)年3月)

『地球科学の時代(7) 兵庫県南部地震』

III その他

【穂別町教育研究会理科サークル】

平成6(1994)年6月21日：穂別町新任教職員(24名)館内研修

【わんぱくサマー in 北海道】

平成6(1994)年7月24日：化石採集指導(64名)

【自然体験王国ほっかいどう・穂別コース】

平成6(1994)年6月29日：化石採集・クリーニング指導(52名)

【日本地質学会101年学術大会普及講演】

平成6(1994)年9月23日：「北海道むかしむかし・北海道の恐竜時代」講演

【千歳化石会講演会】

平成6(1994)年11月27日：「白亜紀の穂別」講演

【鶴川町複式教育研究会】

平成6(1994)年12月6日：化石クリーニング指導

【町内教育・福祉団体の利用】

平成6(1994)年5月6日：穂別町立仁和中学校(16名)

平成6(1994)年6月25日：穂別町立富内中学校(5名)

平成6(1994)年6月29日：穂別町立仁和小学校(13名)

平成6(1994)年7月2日：稲里季節保育所(5名)

【町外教育・福祉団体の利用】

平成6(1994)年5月：

10日：北海道立札幌平岸高等学校(465名)

平成6(1994)年6月：

10日：静内町立静内小学校(5年生)(60名)

19日：茨城県水戸市立第2中等学校(2年生)(36名)

23日：札幌市立西野小学校(107名)

24日：旭川市立春光台中学校(142名)

24日：幕別町立合同小学校(相川・古舞・

糠内・駒島・途別・明倫・中里の7校合同) (17名)

25日：札幌市立稲積中学校(287名)

29日：仁木商業高等学校(1年生)(83名)

平成6(1994)年7月：

7日：千歳高齢者大学(177名)

19日：恵庭市立柏陽中学校(177名)

19日：白老高齢者大学(237名)

25日：清水町立下佐幌小学校(49名)

27日：苫小牧市緑星の里(29名)

29日：道立身体障害者リハビリテーションセンター(32名)

30日：札幌南藻園(55名)

31日：日本地学教育学会第48回全国大会巡回研修(50名)

平成6(1994)年8月：

11日：室蘭ピノキオ幼稚園(106名)

29日：札幌市立山の手小学校(125名)

平成6(1994)年9月：

7日：岩見沢西高校(272名)

21日：帝京技術科学大学地学教室(10名)

26日：札幌清田高校(451名)

平成6(1994)年10月：

2日：旭川希望学園(46名)

8日：富良野高校PTA(12名)

9日：上川町立上川中学校PTA(12名)

16日：江別市郷土資料館友の会(36名)

18日：鷹梅町社会福祉協議会(13名)

20日：美唄市郷土資料館(10名)

平成6(1994)年11月：

3日：苫小牧市日吉町青年部(48名)

6日：新冠小学校PTA(15名)

9日：静内町愛生寿大学(32名)

11日：様似町立鶴苔小学校(18名)

12日：小樽自然文化教育促進会(34名)

16日：富川ひばり幼稚園(43名)

17日：富川ひばり幼稚園(61名)

18日：富川ひばり幼稚園(54名)

平成7(1995)年1月：

11日：札幌市立南ヶ丘中学校(25名)

●運 営

I おもなできごと

平成6(1994)年4月：

- 1日：川上源太郎学芸員補着任
- 8日：長岡静男氏(長頸竜寄贈者)来館
- 21日：渋谷直憲学芸員補助員着任
- 24日：山田吾郎氏(北海道開拓記念館)来館；北海道化石紀行協力依頼

平成6(1994)年5月：

- 31日～6月3日：北海道化石紀行・展示研修(北海道開拓記念館移動展)

平成6(1994)年6月：

- 20～22日：平山 廉氏(帝京技術科学大学)来館
- 23日：竹中一雄氏(千歳市教委)来館
- 25～27日：大路樹生/佐藤たまき両氏(東京大学)来館；長頸竜比較研究

平成6(1994)年7月：

- 2日：ルベシベ沢巡検(雁沢好博・紀藤典夫両氏，学生同行・北海道教育大函館分校)
- 6日：北海道博物館協会役員会(旭川)
- 8日：北海道博物館協会・旭川大会
- 19日：北海道新聞取材
- 23日：岩内巡検(千歳化石会)
- 29日～8月4日：石崎哲也君 博物館実習

平成6(1994)年8月：

- 19日：学芸員研修会打合わせ(北海道開拓記念館)
- 20～21日：松本達郎氏(九州大学名誉教授)・利光誠一氏(地質調査所)来館

平成6(1994)年9月：

- 3日：合地信夫氏(斜里町立知床博物館)来館
- 6日：大谷洋一氏(道立アイヌ民族文化研究センター)来館
- 7日：久末進一氏(室蘭民俗資料館)来館，ノジュール/鳴り砂交換
- 7日：古沢 仁氏(沼田町)来館
- 9日：北海道放送取材
- 21日：博物館協議会開催(町民センター)

平成6(1994)年10月：

- 2日：小山内康人氏(福岡教育大学)来館
- 16日：千歳化石会巡検(稲里：学校の沢)
- 19日：室蘭民報取材

平成6年(1994)年11月：

- 5日：ルベシベ沢巡検(川村信人氏同行・北海道大学)
- 27日：千歳化石会講演会・総会出席

平成6(1994)年12月：

- 1日：北海道博物館協会役員会(苫小牧)
- 7日：川中頼一氏来館(長頸竜鑑定)
- 12日：博物館協力会平成6年度総会

平成7(1995)年2月：

- 16日：地球体験館新人ガイド研修(3名)

平成7(1995)年3月：

- 3日：高橋達弥氏(白亜紀化石会)来館

II 町外自治体などの視察

平成6(1994)年5月：

- 16日：鎌倉市文化振興課(3名)視察
- 17日：胆振管内助役会議出席者(7名)視察
- 24日：胆振管内収入役会議出席者(9名)視察

平成6(1994)年6月

- 3日：足寄町教育委員会足寄町動物化石博物館建設事前視察(3名)
- 18日：石狩管内社会教育主事会研修視察(27名)

平成6(1994)年7月：

- 7日：千歳市教育委員会(2名)視察
- 8日：長沼町社会教育委員(12名)視察
- 12日：静岡県沼津市役所(3名)視察
- 22日：長沼町文化財保護委員会(5名)視察
- 24日：白老町「近郊博物館施設等見学会」
- 26日：虻田町教育委員会および文化財保護委員(10名)視察

平成6(1994)年8月：

- 2日：白老町議会(13名)
- 11日：北海道森林組合連合会会長ほか(5名)
- 17日：三本コーヒー社長ほか(4名)視察
- 23日：農林水産省家畜改良センター新冠牧場技官ほか(3名)視察
- 23日：胆振支庁企画振興課企画係長ほか(2名)視察
- 25日：津別町役場(8名)視察
- 26日：日高東胆振市町村サミット首長ほか(40名)視察

平成6(1994)年9月：

- 7日：沼田町教育委員会(4名)視察
- 13日：滝上町役場(9名)視察

平成6(1994)年10月：

- 5日：美深町議会総務委員会(7名)視察
- 18日：京都府南山城村議会(14名)視察

平成6(1994)年12月：

- 13日：北海道教育庁生涯学習部文化課ほか(3名)視察

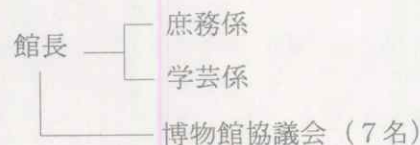
平成7(1995)年1月：

23日：地域プロジェクト懇談会(23名)視察

平成7(1995)年2月：

22日：小平町教委(東海林考一郎教育長)来館

Ⅲ 組 織



職員名簿 (平成7(1995)年3月31日現在)

館長 野田 藤 雄
 庶務係長 中 井 学
 庶務係 佐 藤 貞 子
 学芸係長 地 徳 力
 学芸係 川 上 源太郎

博物館協議会委員(平成7(1995)年3月31日現在)

会 長 荒 木 新太郎
 副会長 小石川 武 美
 委 員 久保田 瑞 真
 委 員 作 田 昌 明
 委 員 谷 口 弘
 委 員 藤 江 保 徳
 委 員 村 上 隆

(平成8(1996)年7月31日まで)

Ⅳ 利用状況

【常設展示観覧者】

平成6(1994)年4月～平成7(1995)年3月

月	一般	学生	計	開館日
4	1,578	542	2,120	25
5	6,564	3,441	10,005	23
6	1,498	1,126	2,624	26
7	3,018	1,471	4,489	31
8	4,399	2,506	6,905	30
9	1,623	1,127	2,750	24
10	1,618	432	2,050	25
11	599	187	786	22
12	79	57	136	22
1	65	37	102	18
2	125	12	137	22
3	329	114	443	25
計	21,495	11,052	32,547	293

(単位：人・日)

Ⅴ 常設展示観覧料

区分		入館者数	観覧料
一般	個人	18,534	5,560,200
	団体	1,921	384,200
学生	個人	7,568	756,800
	団体	3,289	164,450
合計		31,312	6,865,650

(単位：人・千円)

Ⅵ 平成6年度予算

費目	予算
報 酬	84
共 済 費	0
賃 金	2,946
報 償 費	385
旅 費	294
需 用 費	6,030
役 務 費	520
委 託 料	8,325
使用料及び賃借料	1148
原 材 料 費	0
備 品 購 入 費	150
負担金補助及び交付金	155
博 物 館 費 合 計	13,643

(単位：千円)

Ⅶ 利用案内

【開館時間】

午前9時30分～午後4時30分

【休館日】

月曜日・祝日の翌日・毎月月末・年末年始
 (12月30日～1月6日)

【観覧料】

	一般	学生
個人	300円	100円
団体	200円	50円

注：未就学児童は無料(要大人の付添い)

* 学生：小・中学生・高校生

** 団体：10人以上

【減 免】

「(穂別町立)博物館の展示場に入場しようとする者は、観覧料を納付しなければならない(穂別町立博物館設置条例、第6条)」が「(穂別町)教育委員会は、特別の理由があると認めるときは、観覧料を減免することができる(同条例、第7号)」。減免は、教育・研究・福祉を目的とし、以下に従う。

穂別町立博物館施行規則 第6条

条例第7条の規定による観覧料の減免は、次のとおりとする。

(教育目的)

1) 穂別町立小学校及び中学校が教育計画のため入館する場合

(研究目的)

2) 国・地方公共団体及び学術研究機関の職員が調査・研究のため入館する場合

(福祉目的)

3) 老人福祉法(昭和38年法律第133号)第14条に規定する町内の老人福祉施設が収容者の養護計画の実施のため入館する場合

4) 精神薄弱者福祉法(昭和35年法律第144号)第18条に規定する町内の精神薄弱者福祉施設が収容者の養護計画の実施のため入館する場合

(公益目的)

5) 前各号に定めるもののほか、公益上または教育振興上特に教育長が必要と認める場合

穂別町立博物館館報

第12号

平成6(1994)年度

発行 1995年7月1日

発行者 穂別町立博物館

〒054-02 北海道勇払郡穂別町字穂別80番地の6

TEL (01454) 5-3141

印刷 さんようプリント

〒053 苫小牧市柏木町1丁目16番9号

TEL (0144) 72-8400

